

小学五年生でおもちゃパソコン「ぴゅう太」を手に入れた僕は、独学でプログラミングを学んでいきました。ただ、初めからすらすらと理解できたわけではなく、最初の数カ月は全く理解できないまま、「ゲームを作りたい」という一心でひたすら付属の説明書を読み続けたのです。

ある日、ふとしたことをきっかけに理解が一気に進み、日曜日に丸一日をかけて初めてのミニゲームを完成させたのでした。その時の爽快感、達成感は今でも心地よく僕の中に残っています。

中学二年生になるころには、地元で新聞配達をしたためたお金と母親の援助でさらに高性能なパソコンを

はやし 高生

プログラミングに没頭

手にしていました。プログラミングの世界に没頭していった僕は、学校でも授業そっちのけで紙にプログラムを書き、帰宅するとそれをパソコンに入力し、自分の思った通り動作するのか、仮説が正しかったのか、確認するといろいろ繰り返しました。そんな「遊び」を夜が明けるまで楽しんでいたので、翌朝は起きられず、学校にも遅刻し、授業中も居眠りばかりするありさまでした。

妻と出会ったのはこの中学二年生の時でしたが、隣の席で授業中に寝てばかりいる僕をみて「この子は大丈夫なのだろうか？」と心配していたそうです。そんな生活をしている僕をとがめることもなく見守っていた母親の教育方針も今思えば、良かったのかもしれない。

(エイチーム社長)